

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No.240 2017年3月発行



新築の自宅前で奥さんと一緒に佐藤初男さん

3・11 東日本大震災から6年

OBの被災者は今?

あの「東日本大震災」から、6年目を向かえました。被災地では、新たな町づくりが進む中、東京オリンピック誘致による影響で復興計画が予定通り進まず、未だ仮設住宅の中で不安な毎日を通しておられる被災者も大勢います。

本部OB会もこの「東日本大震災」の大津波によって、15名の会員が自宅を流失する甚大な被害を受けました。

その内の一人が仙台地本OB会の佐藤初男さんで、今回本部OB会はその佐藤初男さんの6年間の生活を追ってみました。

佐藤さんは震災当日ボランティア活動中に地震に遭遇し、奥さんと近くの小学校に避難しました。自宅は完全に流失したため、地域の人達と仙台市内の若林体育館で、約一か月間共同避難生活を送りました。

この時期に(4月15日)本部OB会が被災地調査のために仙台市を訪れ、体育館で避難生活をしてきた佐藤夫妻と出会い、荒浜地区にあった自宅跡地や周辺を案内してもらいました。

佐藤さんは、ダンボールの壁で区切られた共同避難生活を経験した後、市が「みなし仮設住宅」として借り上げた民間アパートに移る事ができ、そこから近所にいた被災者の相談相手になったり、自分の再建計画を立てながら過ごし、2015年8月に新しく整備された復興住宅地に念願の自宅を新築しました。

この間佐藤さんは、多くのOB会員の激励の言葉や各地本OB会から送られてきた名産品に励まされて、仙台支部OB会の副会長として奮闘しました。一昨年から「田城後援会」活動でOB会員宅を訪問した時には、同じく被災された富田先輩や小野先輩が、既に新たな地で元気に活動をしている



被災直後、避難所生活を送った若林体育館

姿に接して大変感激したそうです。

その一方で、復興計画の遅れから、まだ仮設住宅での生活を強いられるOB会員もおられます。

また「福島第一原発事故」によって、被害を受けたOB会員もいます。事故から6年経って、除染作業が済んで自宅に戻った会員もいますが、未だに故郷に戻れない人や、放射能の恐怖に苦しんでいる人がいる事も忘れてはなりません。

本部OB会は、被災された方々が一日も早く将来の不安もなく、安心して暮らせる日が来るまで支援して行きます。

日本退職者連合が「事務局長会議」と「院内集会」

2017年 全国事務局長会議

2月15日13時より連合本部3階会議室で、「2017年全国事務局長会議」が開催されました。この会議には、23産別・関連退連と47地方退職者連合の事務局長が参加しました。

阿部会長のあいさつの後に、弁護士の手師徳彦氏から「悪質商法と高齢者被害の実態」について話がありました。

会議では、「組織拡大」と「財政基盤強化に向けた検討」について活発な意見が交わされ、「会費の値上げ」については、更に役員会で検討し、定期総会までに結論を出して行く事になりました。

2・16院内集会

2月16日10時より参議院議員会館講堂で、第193通常国会に向けた「政策・制度要求実現2・16院内集会」が、300名の参加者で開催されました。JR総連OB連絡会からは、6名が参加しました。来賓には連合より新谷副事務局長、民進党の野田幹事長、社民党の福島副党首が出席しました。

集会では、伊藤連合生活福祉局長より「医療・介護・年金等に関する国会等の動きについて」報告がありました。

菅井事務局長からは、「社会保障制度に関する2017年度春の要求」が説明され、国会の山場に向けては、国会傍聴を取り組む事が報告されました。

